

大腸がん術後の後腹膜リンパ節再発に重粒子線治療（炭素イオン線治療）を受けられた皆様へ

QST病院では、大腸癌術後の後腹膜リンパ節再発に対する重粒子線治療とX線治療を比較する研究を行うことになりました。この研究は、診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究では、文部科学省・厚生労働省・経済産業省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」により、対象となる患者さんのお一人ずつに直接説明を行った上で同意をいただく代わりに、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先：窓口」へご照会ください。もし、詳しいことをお知りになりたい場合には、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲で、より詳しい計画書や関連資料を閲覧いただくことができます。また個人情報保護法に基づく開示・利用停止等の手続き等を希望される場合にはお申し出ください。

[研究課題名] 大腸癌術後後腹膜リンパ節転移に対するX線治療と炭素イオン線治療の後ろ向き比較観察研究

[研究実施期間] 許可日～2025年3月31日

[研究機関] 国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 QST病院（病院長 石川 仁）

[研究責任者] QST病院 磯崎 哲朗

[研究の目的] この研究の目的は、QST病院において大腸がん術後の後腹膜リンパ節再発に対して重粒子線治療を受けられた方の重粒子線治療効果や有害事象を遡って解析し、大韓民国Yonsei Universityで行われているX線治療の成績と比較します。

[共同研究機関] 大韓民国 Yonsei University（研究責任者：Woong Sub Koom）

[研究の方法]

●対象となる方々

2000年1月から2021年12月までに大腸癌術後後腹膜リンパ節転移に対して重粒子線治療を受けた方。

●利用する情報

2021年12月までに記録された、診断名、年齢、性別、臨床情報、血液検査結果、予後、副作用
得られたデータは情報取扱いの安全管理された電子システムにより集計します。

新たな質問や検査はありません。

[個人情報の取り扱い]

患者さんの権利と安全を守り、データの信頼性を確保するために、専門家がカルテを確認することがあります。集計されたデータは他の情報と照合しない限り特定の個人を識別できないよう加工された上で大韓民国Yonsei University担当医師に提供されます。データの送付はインターネットを介してパスワードをかけて行い、Yonsei Universityの用意するセキュリティ付きデータベースに保管されます。研究成果は、誰の情報であるかがわからない状態で発表します。個人名などが表に出ることはありません。（QST病院では個人情報保護法及び研究機関の個人情報保護に関する規則等に従い、共同研究機関においては当該国である大韓民国の「プライバシー法」という個人情報の保護に関する法律と「生命倫理安全法」という研究に関する法律が適用され、これに対応した機関内での規則等にも従い、資料の保管管理及び利用等に関する措置を行います。）**この研究にご自分のデータを使ってほしくない方（または代理の方）は、2024年3月31日までに下記窓口にお申し出ください。**この調査へのご自分のデータの使用をお断りになっても、不利益を受けることはありません。なお、上記の期間の後、データを解析して個人情報と切り離してしまった場合には取り除けないことがあります。その場合にも個人情報が表に出ることはありません。

[問い合わせ先：窓口]

千葉県千葉市稲毛区穴川4-9-1

国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 QST病院 磯崎哲朗

電話：043-206-3306（平日；9：00～17：00）

